

梅花纹水罐（水指）

这件水罐由京烧大师野野村仁清制作而成，京烧是京都的一种著名陶艺风格。这件艺术品水平精湛，是 17 世纪茶具代表作。因此，它于 1950 年被指定为日本重要文化财产。

仁清于 17 世纪中后期活跃于京都。他求学于陶瓷业中心有田（今属佐贺县）和濑户（今属岐阜县），之后得到宗和流茶道创始人金森宗和（1584–1656）资助，在京都建立了自己的窑炉。金森宗和引导仁清形成了与其茶道理念相契合的风格，并在皇室成员中推荐仁清的作品。

水罐在日语中称为“水指”，在茶会中主要用于盛装清水。人们会将罐中的清水注入水壶来煮茶，并用清水洗涤茶盏。茶会时，东道主将各种用具逐一带到聚会的茶室，最先入场的通常是水指。不过，由于其体积较大，盛水后比较沉重，水指往往会被提前布置在茶室中。这件水指直径为 23.4 厘米，

罐体的梅树图案采用釉上彩工艺“色绘”，使用此技巧时，陶艺家先将器皿初步上釉烧制，再用彩色釉料绘制图案。随后，作品需在低温下经过第二次烧制，以融合两层釉料。由于釉料在烧制时会融为液体，并因化学反应而变色，陶艺家必须充分了解材料的变化，才能实现预期的效果。

コメントの追加 [u1]: 【要確認】
日本語にない内容ですが、間違いないでしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT2R1]: 英語原稿には「After studying in the pottery centers of Arita」と記載されております。本事業は英語からの多言語事業となりますので、英語の原稿をもとにご確認いただけますと幸いです。日本語はあくまで仮訳となります。

仁清经常使用这种淡米黄色的厚底釉作为基础，并在上面施以彩绘。此件作品以红、黑、绿釉描绘梅树及花朵，并以金漆更为清晰地勾勒出轮廓。部分花朵用银漆装点，当颜料逐渐氧化，就会呈现出略带光泽的灰色。可以看到，仁清巧妙地用浅绿点染枝干，惟妙惟肖地勾勒出覆满青苔的老树虬枝。

仁清也影响了加贺藩（今石川县和富山县）九谷烧的发展。掌控加贺藩的前田家族及其家臣十分欣赏仁清作品的风格，并收藏了仁清的多件作品。

コメントの追加 [u3]: 【要確認】
「厚く塗り重ねる」の「厚い」部分だけ反映されていますが、大丈夫でしょうか。

コメントの追加 [VT4R3]: 英語には「Ninsei often used thick layers of the yellowish-white glaze seen here as a base for his colorful designs」という表記になっており、また、コメントでいただいている「厚く塗り重ねる」という部分とあわせて検討しても、厚い層を重ねているのか、薄い層を重ねて結果的に厚い層になっているのが明確に記載されていないため、誤訳を防ぐためにこのような書き方が良いかと存じます。

コメントの追加 [u5]: 【要確認】
「緑色の濃淡で」は「薄い緑色で」として訳されていますが、大丈夫でしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT6R5]: 英語原稿では「lightly shaded green」となっているため、問題ないと存じます。